

湯川だより



第28号 2016/08/25
発行：御代田町 町民課

～安定したごみ処理の実現と新クリーンセンター整備に向けて～

環境影響評価「事後調査報告書」を県に提出

佐久市・北佐久郡環境施設組合では、平成27年度に実施した新クリーンセンター建設に係る環境影響評価事後調査を取りまとめ、長野県知事へ提出しました。「事後調査報告書」は、事後調査計画に基づき実施した事後調査の状況や環境保全措置の状況を記載するもので、毎年6月に前年度1年間の状況を報告します。新クリーンセンター建設に関する事後調査報告書は、今回が初めての提出となります。報告書は、平成28年7月19日からの1か月間、県による公告・縦覧が行われました。

平成27年度の事後調査は、動植物の環境保全措置を目的に行いました。報告書の主な内容は、次のとおりです。

【植 物】

ヤエガワカンバ

環境省レッドリスト 準絶滅危惧
長野県版レッドリスト 準絶滅危惧

平成27年4月17日、事業計画区域内に自生していた成木を工事の影響が少ない場所へ移植しました。順調に活着し、これまでのところ、生育状況に異常は見られません。

併せて、種子の保存及び播種・育苗も実施しました。プランターへ播種したものから、実生が確認されました。



▶ 移植後の成木

▲ 播種実施4ヶ月後の様子

オニヒョウタンボク

環境省レッドリスト 絶滅危惧Ⅱ類
長野県版レッドリスト 準絶滅危惧

平成27年4月20日、事業計画区域内に自生していた成木を工事の影響が少ない場所へ移植しました。アブラムシやカビの発生が確認されたものの、薬剤散布等の適切な対応により枯死することなく生育しています。

播種したものから、プランターで21個体、床蒔きで11個体の実生が確認されました。



▶ 赤く色づいたオニヒョウタンボクの実

ギンラン

長野県版レッドリスト 準絶滅危惧

平成27年5月、事業計画区域内で新たに生育している1個体を確認しました。ギンランは、菌類と共生する特殊な生育形態にあるため、有識者のアドバイスを踏まえ、11月24日、個体周辺の土壌とともに移植しました。直径60cmの円形の筒を埋め込み移し替えたため、バックホーを使った大掛かりな作業となりました。

過年度の生育地では、新たなギンランの確認はできませんでしたが、枠囲いを設置して環境の保全を実施しました。

▶ 新たに見つかったギンラン



◀ 重機による移植作業の様子

【動 物】

ベニモンマダラ

長野県版レッドデータブック 準絶滅危惧

ベニモンマダラは、黒っぽい羽根に紅色の斑点を持つ蛾で、日当たりの良い草原に生息しています。

事業計画区域内で生息地が確認されていたため、生息基盤の移転を試みました。

当初は、ベニモンマダラ幼虫の食草であるクサフジの表土移植を計画しましたが、移植元の法面にワイヤー製の保護ネットが埋まっていたため、その計画は断念せざるを得ませんでした。そのため、種子を採取し、移植先及びポットへの播種を行いました。平成28年3月時点では、発芽の確認はできませんでした。

今年度も育苗を継続して行い、ベニモンマダラの生育基盤の移転を目指しています。



▶ ベニモンマダラの成虫

クリイロベッコウ

環境省レッドリスト 情報不足



クリイロベッコウは、カタツムリのような形をした直径6mm程の陸産貝類です。落葉広葉樹林等に生息していますが、繁殖時期や生息環境など詳しいことは解明されていません。

事業計画区域内で生息地が確認されていたため、生息基盤の移転を実施しました。

平成25年に生貝と死貝を確認した2箇所の生息基盤(落ち葉と表土)をかき集め、影響を受けない2箇所へ移植しました。



▶ クリイロベッコウの移植作業の様子

新クリーンセンター施設用地造成工事が始まりました

佐久市平根地区の新クリーンセンター建設予定地では、6月から雑木等の伐採作業が始まりました。測量や管渠工事を行い、8月からは掘削工事が開始されています。建設機械の稼働や工事関係車両の通行等で、皆様にご迷惑をお掛けすることもございますが、ご理解・ご協力をお願いします。

工事についてお気づきの点等ございましたら、組合事務所までご連絡をお願いします。

【建設現場上空から撮影】



▲工事着手前（6月上旬）の様子



▲7月下旬の様子

「循環型社会形成推進交付金」要望活動を実施

国は、市町村等が廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)を総合的に推進するため、広域的かつ総合的に廃棄物処理・リサイクル施設整備を計画した場合、その施設整備に対し「循環型社会形成推進交付金」を交付することとしています。

7月29日、長野県及びごみ焼却施設等の整備を計画している県内16の関係市町村・広域連合等の代表者により、必要額が確実に予算措置されるよう国(環境省及び県選出国會議員)に対する要望活動を行いました。当組合からは、小池茂見副組合長(佐久市副市長)が参加し、環境省環境事務次官や県選出衆議院議員7名に対し、要望活動を実施しました。



▲小林環境事務次官へ要望書を手渡す長野県内の関係者

(右から6人目が小池副組合長)



▲各団体による状況説明の様子

(一番左が小池副組合長)

ちよつとそこまで♪

やまゆりの魅力を発信中!



御代田町観光キャラクター
みよたん



御代田町の町花『やまゆり』。夏になると、白色に茶褐色の斑点を持つ大輪の花を咲かせます。御代田町観光キャラクターであるみよたんの帽子は、やまゆりの形をしています。実はみよたんの趣味の一つが「やまゆりの栽培」なんです。

このやまゆりを大切に育てながら、その魅力を発信し続けているのが『やまゆりの会』会員の皆さんです。

やまゆりの会は、昭和63年に結成されました。やまゆりを大切に想う仲間が集まり、日々栽培方法等を研究しながら、やまゆりのあふれる町を目指して活動を続けてきました。主な活動としては、春の緑の即売会への参加、龍神まつりでの鉢植えの展示会、やまゆりを育てている方のお宅拝見、栽培講習会等があります。この他、やまゆり生息地の草刈りや手入れといった作業も定期的に行っています。



▲こんなにたくさんの花をつけるものもあります

今年も7月中旬に、会の役員さんがやまゆりを育てている方を訪ねて写真撮影する「お宅拝見」が行われました。昨年からは会長を務める伊東喜代彦さんによると、どのお宅も大切に育てられたやまゆりがたくさんの花を咲かせていたそうです。その際、栽培した方とご家族がやまゆりの花と一緒に写る写真を撮影し、後日四つ切写真に加工してご本人にプレゼントしているのだそうです。その時の写真を少し拝見させていただきましたが、咲き誇るやまゆりの花に負けないくらいの皆さんの素敵な笑顔が印象的でした。

「やまゆりを栽培する中では大変なこともあるけれど、その分、大輪の花が咲いた時の喜びは大きいものです。」と、伊東会長は話してくれました。町花であるやまゆりが、さらにあふれる御代田町となることを願って、やまゆりの会の活動は続きます。



今年の「お宅拝見」の様子▶

編集後記

屋間の暑さが一段落し、心地よい風がそよぐ7月中旬の夕刻、面替区のクライנגルテン交流館にて、『^{すばる}昂の会(代表 茂木重幸さん)』主催により、二胡奏者の楊雪(ヤン・ユキ)さんによるコンサートが開催されました。『大星の杜 二胡の夕べ』と題されたコンサートには、住民やガルテナー併せて約70名の皆様が参加され、美しい二胡の音色に聞き入りました。楊雪さんは幼い頃から、二胡奏者である父親の影響を受けながら育ったそうです。以前、エコールみよたにおいてもコンサートを開催されたことがあるので、ご存知の方もいらっしゃるでしょう。かおり高い文化に触れ、素敵なひと時を過ごすことができました。



【発行】 御代田町役場 町民課 環境衛生係
御代田町大字御代田 2464 番地 2 電話：0267-32-3114 (町民課直通)

【組合問合せ先】 佐久市・北佐久郡環境施設組合 事務局
佐久市中込 3056 番地 (佐久市役所内) 電話：0267-62-2916